



在京古高同窓会
会報
第20号

〒150 東京都渋谷区
-0043 道玄坂1-15-3
プリメーラ道玄坂110号
信陵会館内
在京古高同窓会事務局
☎ (03) 3462-1225
FAX (03) 5489-1358
印刷：(株) ケーヨー



在京同窓生の皆様には恙なく
新年を迎えられ何よりと存じま
す。
日頃会員の皆様には同窓会活
動にご協力を賜り有難くお礼を
申し上げます。

さて、昨年は母校が百周年を迎
えましたが、また更なる百年に向
けて始まる節目の年でもありま
した。

記念式典の開催日がウイーク
デーということもあり、国会の重
要法案採決の日と重なり出席で
きなかつたことは、人生に於いて
二度と巡り会えない記念式典
だけただけに、誠に残念でなりま
せんでした。

百周年を一つの契機に、在校生

の生徒会活動(運動部・文化部・
執行部)で活躍した方に「生徒会
功労賞」を在京古高同窓会より、
贈ることに致しましたが、本年
三月の卒業生から実施いたしま
す。

これは全国津々浦々の先輩達
が、在校生の文武両面での活躍を
見守り、エールを送っていること
を自覚し、励んでもらいたいから
であります。

本年で五回目を迎える古川市内
高校の合同新年会も、年々盛況を
呈し、今年から会場を上野の精養
軒に移し、一月二十五日(日)に
開催されます。同じ大崎平野で育
まれた者が、一堂に会し、話し合
うのも楽しからずやであります。
昨今の社会情勢は金融不安や倒
産・廃業等が相次ぎ、厳しいもの
がありますが、こういう時こそ、
会員相互の親睦を深め、支え合っ
て存じます。

会員の皆様のご奮闘とご発展を
祈念申し上げて、年頭の挨拶とい
いたします。

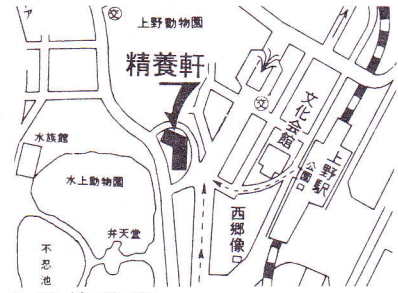
在京同窓会メモー

- ・信陵会館は井の頭線
渋谷駅線路沿いです。
- ・会館管理は壽田さん。
同窓会関係者は常駐
しておりませんが、
応対いただけます。
- ・会計年度は6-5月、
年会費2000円です。
- ・次回会報第21号は
7月1日発行予定
です。郵送して下
さい。

お知らせ

第5回古川市内四校合同新年会

- ・四校幹事により入念に準備中です。
- ・特別講演は中川古川市長。
- ・“古川米”をはじめ物産の販売も行います。
- ・交通案内：上野駅公園口より徒歩5分



上野 精養軒
上野公園4番58号
電話 (3821) 2181

なつかしい上野
青雲の志気燃えた
UENO語り合いましょ！

ごあいさつ

「創立百周年記念式典を終えて」

学校長 久保田 齊



在京古高同窓会の皆様、明け
ましてお目出度うございます。
皆様には益々御健勝のこととお
慶び申し上げます。

さて、先輩の皆様にご支援を
頂いて来ましたが、本校創立百周
年記念事業もお蔭様で概ね順調
のうちに推移していることをま
ず御報告申し上げます。中で
も、十一月六日に実施されまし
た記念式典は、厳粛で気品に満
ち、且、格調高く、百周年を飾
るにふさわしい式典であった
と、参加された方々からお褒め
の言葉を頂きました。生徒諸君
も百年の歴史と伝統をガッツリ
と受け止めて、古高生であるこ
とを誇りに感じる一時だったと
思います。

伊藤衆院議長さんに参加頂け
なかつたのは、何より残念なこ
とでしたが、浅野宮城県知事を
はじめ、本校OBの遠藤・鈴鴨
の新旧の教育長、また在京同窓
会からも遠路わざわざ高橋、遠
山、春田の副会長さん方をはじめ
多数ご参加頂き、都合四百人

以上の御来賓の参加を頂きまし
た。会場の都合で皆様に御案内
出来なかつたのが残念でした。
私は、式辞の中で、十八史略の
中の「創業は易く、守成は難し」
の故事を引用し、古高生に、先輩
の築いた伝統を礎に、常に真摯
な態度で真理を追求、自己実現
を果たすと共に新しい時代を創
造する強い気概を持って、それが
諸君に課せられた「守成」として
の具体的な歩みであると訓示し
ました。

また、兄弟校の築高の生徒代
表が祝いにかけて、先輩校と
して常に輝き続けてほしいと期
待を述べ、共に頑張ろうと本校
代表と堅い握手を交すという伝
統校ならではの、清々しい場面
もありました。

式典後、古中四十七回生で、長
崎大学名誉教授の松本慶蔵先生
(松山町出身)に、「国際人たる自
覚」と題して感銘深い講演を頂
きました。

当日の挨拶や講演の内容は、
生徒会機関誌「凌雲」の記念号に
掲載されます。

最後になりましたが、在京古
高同窓会の皆様の、母校への変
らぬ御支援に感謝し、また皆様
の御健勝を御祈念申し上げます。
挨拶と致します。

新年を迎えて

古高同窓会会長 野村喜太郎

在京同窓会の皆さん、新年明けましてお目出度う御座居ます。

旧年十一月六日母校百周年記念式典には、多くの会員の方々のご参列を得て盛大に挙行出来ましたこと厚く御礼申し上げます。参列致しました元校長先生が、私に語られた感想の一端を一寸ご紹介申し上げます。「三権の長であり、しかも現職の六十九代衆議院議長伊藤宗一郎先生のお祝辞を、創立百周年記念式典に頂戴するのは古高の名誉であり在校生の運のいいこと、巡り合せのいいこと、何よりの贈物と感じ、聴いていて自然に涙が出て参りました」と。現職の衆議院議長が古高の同窓生であり、在京同窓会の会長であることの重みを痛切に感じさせられた一言でした。

式典での同窓生の席は後部で支部毎に区分しなかつたので、大勢ご出席いただいた在京の方々には大変失礼致し心苦しく思っています。副会長の高橋淳夫先輩の力強い挨拶と激励の言葉や頂き心温まる思いも致し同窓の有難味を感じました。

長崎大名誉教授松本慶蔵先生の記念講演では百年に亘る大先輩や同窓生の活動業績を紹介し、涵性を高め国際人としての自覚、そして活躍される様古高生を激励して下さいました。機会がありましたら在京同窓会にも出席してみたいと松本先生が話して居りましたのでお伝え致しておきます。

おかげ様で平成十年は文化部活動センターの建設に取り組みますので、今後共よろしくご指導ご協力の程お願い致します。

七一年後から大崎管内の卒業は現在数の半分となり高校の生徒数も半減致しますので、中高一貫教育、男女共学、高校の統合等検討されて居ります。この様な時代に大崎四高校の関東地区同窓会合同新年会も回を重ね懇談を深めて参りますのも意義のある事と存じご盛会を念じ新年の挨拶と致します。

ふるさと
昭和9年卒 伊藤守治

中新田町の西方に葉菜山という秀麗な山があります。在学中数人の友人と共にこの山に登りました。出で立ちは簡単で下駄ばきの人もいました。ここに大滝があり水量も多く、電気に打たれる気持ちでした。鳴瀬川の源流の一つになっているこの水で飯合飯を炊き食事をした味は今も忘れることができません。

この山は五年間中学校に通学するときの目標になったことは確かです。吹雲の朝は追い風でも帰りは真向からの寒風に歩行困難になることもあったのです。自然と自分との闘いである。五年間の通学で身体を充分鍛えられことは事実である。

快晴の日は友人との談笑、英、漢学語の暗記、上級生との質疑応答等極めて有益なものがあつた。この道路に並行して走っていた軽便鉄道（一名軌道つこ）には

めつたに乘ることはできなかつた。上級生の目が厳しかったからである。しかし、この軌道つこも強風には勝てず、皆で後押ししたこともあつた。しかし、時代遅れとなり昭和三十五年五月一日に廃線となつた。

昨年十月葉菜山を訪れる機会があつたが、その様変わりには一驚した。即ち温泉あり、ゴルフ場あり、ログハウスで安く泊まれる町民宿舎あり、町民による町民メーカ保持のスーパーマーケットあり、道路の整備、その近代化には瞠目した次第である。ささしき本場の大崎平野は充実の途上にあるように思われた。

人口一万五千人弱の中新田町も大昔は、大水害・大火災を蒙つたものであるが、これを克服し復興繁栄し今日に至つており三人の代議士を国会におくつて居る。中島鶴六、本間俊一、伊藤宗一郎である。

中新田町出身の古高生間で「成徳団」という会をつくり時折集会を開き、議論風発、相互啓発懇談の機会を得たことはわが生涯に思い出深いものがある。葉菜山の麗姿も鳴瀬川の清流も変らない懐かしい故郷である。

六回目の柔道部OB会開催
昭和45年卒 島山英洋

十一月十九日（水）の午後六時から東銀座の「うしお荘」で六度目の在京柔道部OB会が開催された。昨年のOB会は、片平事務局長の葬儀と重なり残念会となつた。さらに今年に入つて四十二

年卒の二郷英明さんを交通事故で失つてしまい、三十数人のOB会にとつて大きな痛手となつた。今年はその少ないメンバーの中から忙しいにもかかわらず十人が集まつた。

母校百周年誌の中から柔道部関係の抜粋コピーが配られたせいか、思い出話を肴に大いに盃が進んだ。また今回は、古川から五十年卒の小林信之君（戦後二度目の団体優勝したときの主将で個人でも優勝しインターハイへ出場した）が駆けつけ、母校柔道部の現況と今後の見通しについて話してくれた。小林君の話では「部員不足で最近では低迷が続いているが、有望な新入部員が揃つた」ということだ。来年以降は期待できそうだ。

来年のOB会で小林リポートを楽しみにしたい。

新米試食懇談会
昭和20年卒 横山栄治

古川産「ササとろまん」とひとめぼれ「新米試食懇談会」が十月七日台東区池之端「水月ホテル 鶏外荘」に於いて古川市・JA古川市・JA西古川・古川市農業振興協議会の主催で行われた。

古川市長・市議会議長・JA関係者・台東区助役・区議会・区役所関係者・宮城県経済連・東京都中央食糧協同組合・米穀取扱業・台東区消費者団体・在京古川会等百四十余名の出席で盛大に開催された。

米試食会炊きたての温かいご飯を銘柄毎にそれぞれの味を大変美味しくいただきました。

いただきながら古中時代に行き「田植え」「田の草取り」「稲刈り」「落ち穂拾い」等大変な重労働で手間暇かけてお米が出来る経験が思い出されました。

古川に生まれた者はおいしいご飯をいただいて育つており、私は東京に来て四十数年、やはりご飯党です。それも古川米「ササニシキ」を愛し、食べ続けて参りました。美味しいものに目のない私は仕事柄、全国にでかけることが多かつたのでその土地土地のお米を食べましたが、やはり「ササニシキ」に優るものはありません。

多くの皆さんにお会いする機会があり、その時ご出身はと聞かれますと私は「ササニシキ」の本場の古川ですと答え、お米のPRをさせて頂いていただいております。試食会でも皆様から熱心にいろいろな意見がだされましたが、PRをもっと工夫して多くの皆さんに食べてもらう様にすべきだとの声が多くありました。

私達の毎日の食生活で欠かさないのがご飯です。この頃はいろいろな食物があり、ご飯のPRが数多くなされておりますが、やはり古来からのお米を少しでも多くの皆さんに食べていただくたいものだと思います。「ササニシキ」「ひとめぼれ」「ささろまん」古川産のお米がますます多くの皆さんに愛され食されます様に祈つてやみません。

百周年式典に出席して

古高百周年記念に寄せて
 昭和17年卒 高橋淳夫

十一月六日母校古川高等学校百周年の記念式典並びに祝賀会が行われた。天候にも恵まれ却々の盛会であった。長崎大名誉教授松本慶蔵氏(四十七回卒)の講演も立派で、後輩の生徒諸君もさぞ感銘深いものがあつたことと思う。在京同窓会の挨拶は祝賀会席上でということだつ



たので、在京同窓生二千(実働六百)人を代表して百周年おめでとうございますとの祝いの言葉と、今日の盛事にお骨折り頂いた方々への御礼を申し上げるにとどめ、伊藤会長の祝詞を伝える事を主とした次第である。

古高百周年式典に参加して
 昭和25年卒 遠山仁

十一月六日、母校の百周年記念式典が校内の体育館で盛大に取り行われた。久保田校長の式辞、中川協賛会長の挨拶、伊藤衆議院議長(議

会開催中で代理)及び浅野知事の祝辞、生徒会長の言葉と続いた後、長崎大名誉教授松本慶蔵氏(古中四十七回卒)が「国際人たる自覚」と題して記念講演を行った。演壇の前に居並んだ在校生は、気合いのかかった先生の指示に従い秩序正しく立礼をしていた。

松本氏は古中在校当時以来心にとめて来られた先師先輩の言葉に何度も言及されながら、新たな精神主義と国際感覚の高揚の重要性を熱く説かれた。在校生は静かに聴き入っていた。服装もヘアスタイルも全く自由というのは今何時等異とすべきことではないが、戦後間もなく長髪可否が全校委員会で論議

されたことを思い出し、これを糸口にいるいろいろなことを想起した。思えば戦時体制のなから戦後の開放体制への移行は大変なことであった。自由主義か一論などもいち早く行われていた。当時の先生方のご苦労がいまに

してのばれる。いただいた古高百年史は内容多彩な力作で、とりわけ部活動の回想記などからは時代の生気がストレートに伝わってくるようである。今在校生は何に感激し、何に燃えるのか、授業や生徒会の様子を垣間見たいものと思つたことであつた。

内に歓談の輪が広がった。恩師の方々のお元気なお姿は懐かしい限りであった。

百周年記念事業のうち文化部活動センターの建設はまだ先のことであるが、校舎、附属施設はすべて面目を一新し、旧校舎の面影はほとんど無い。

これは私のような者にはさびしいといえさびしいことだが、いかんともし難いことで母校の発展を祝しながら懐旧の念を温めていくほかはない。

しかし、啄木ではないが、栗駒・葉菜・舟形などの山々や耕土のただずまいに変わりが無いのは有り難いことである。同窓の集まりといえれば必ず校歌や応援歌が歌われる所以でもある。

百周年式典に寄せて

在京古高同窓会会長 伊藤 宗一郎

御承知の通り国会の最中であり、また特に今日は重要法案の採決がありますので、百周年に出席できず遺憾です。茲にお祝いのメッセージを託します。

祝詞母校古川高等学校が創立百周年を迎えられたこと、誠にめでたく、心よりお祝いを申し上げます。これまで御薫陶に当られ、学校の発展に責し頂いた先生方、学校関係の方々、PTAはじめ地域社会の皆様には敬意を表すると共に感謝申し上げます。

私も旧制中学四十回の卒業生で、その昭和十六年は日中戦争から太平洋戦争に突入した大変な年

でした。然し中新田より汽車通学した五年は良き師、良き友に恵まれ、仰ぎ見て志を振り立たせた先輩のことが、懐しさと母校良かれの念が消えたことではありません。百周年の喜びひとしおであります。

一口に百年と申しますが、明治・大正・昭和・平成と星移り年変つた歴史は重く、終戦後の学制改革はじめ山あり谷ありだつたと思ひます。変わりゆく中に脈々として伝えられた校風・質実剛健・学の尊重・自主自律そして文武両道は今日に続き、学業に運動に成果を挙げていることは嬉しいことです。又校風に培われた二万余の卒業生が政財官界に、教育・産業・法曹・医学・芸術スポーツの各分野に活躍されております。地域社会のリー

ダーとしての貢献も尊いことであり、之等は古高生の誇りでもありましょう。

百周年は教えるも学ぶも次の百年への出発点です。母校が自主性を重んじ文武両道の全人教育をされているのは心強いことです。戦後五十年を過ぎ大改革を避けられない日本は難局に直面しております。経済大国として国際貢献も求められております。地元地域社会も人材を欲しております。生徒の皆さんへの期待は大きいのです。志は大きく、勉強は怠らず、地に足をつけて歩んで下さい。

久保田校長はじめ先生方、協賛会の方々、ここに参席の皆様様の健康とご多幸を祈り、以上お祝いの言葉と致します。

百周年式典に出席して



わが母校古高が創設されて百周年を迎える式典が去る十一月六日古高講堂で行われ、在京同窓生有志の皆さんと共に参列させて頂いた。

壇上に設けられた主賓筆頭の席には衆院議長伊藤宗一郎君の席が設けられていたが、国会開会中のため欠席だった。

在京の古高同窓会では母校の近年の沈滞振りが話題になるのが常で、私もこのことに心を痛め淋しい思いをしていたので、自分の眼で近況を確かめたい一心で参列の一人に加わった次第であった。

わが郷土の大崎健児は世にも純朴なるが故に戦後の偏向教育の猛威の汚染を受ける度合も大きかったのだらうと半ば好意的立場に立ちながらも淋しい思いに変わりはない。

式典に参列して、先づ壇上正面に飾られた日の丸の旗を仰ぎ見、そして国歌君が代の斉唱が淀みなく進められるに及んで、ホッと安堵の思いであった。そして校長さん始め先生方の最近の懸命の努力のさまを聞くに及んで、ようやくわが母校もこれから徐々によくなるに違いないという期待が待てるに至った。このことが、この度の大きな収穫であった。

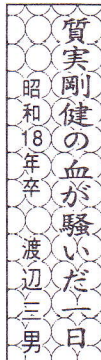
翻って十年前の九十周年の際は、小生講演会講師の委嘱を受ける光栄に浴したが、こ

の時はソ連にゴルバチョフが登場し、東西冷戦構造が雪どけムードに転じ、やがてベルリンの壁崩壊へと展開したことは周知の通り、わが国は経済大国として世界中から注目される国になっていった。戦中戦後の苦難の中から経済大国を実現した感動にひたりながら二十一世紀のアジアの時代を睨んで、新しい世紀の主役になる後輩諸君にエールを送る雰囲気の中であった。

この時既にバブルは徐々に進行しつつあった。そして今やこの僅か十年の歳月の後にバブルは崩壊し、未曾有の惨憺たる状況に突入し、何が起っても不思議でない容易ならざる局面を迎えている。舵取りよろしきを得なければ日本丸の沈波のシナリオだつてあり得る状況なのに拘らず、政治の世界にはその緊迫と気概が希薄で強力なリーダーシップは期待できそうもなく、わが国の前途が思いやられる昨今である。

又戦後経済発展の陰に、心の世界が置き去りになり倫理の荒廃は目に余るものがある。迂遠な様だが、何千年に亘りわが国固有の文化を育み、明治維新を或しとげた先祖の遺伝子に期待し、若い世代の倫理観に裏打ちされた人間形成の教育、家庭の躾教育も含めた教育の直直しに取り組むべきことを痛感する。古中、古高の百周年に当たりこんなことを感じた。

受付で署名登録し、(古中・古高百年史)・記念手ぬぐい・校歌応援歌CDなどのお土産を頂いて待機した。



百周年記念式典に参加し、昭和十八年卒業以来初めて母校の門をくぐった。受付開始の九時を過ぎたころから参加者は続々と集まりはじめた。おそらく全国から馳せさんじてきているのである。

式典は、体育館で十時から始まった。会場は、在校生徒・職員同窓生そして多数の来賓で埋め尽くされた。式は、学校長式辞・教育委員長告辞・浅野県知事を始めとする来賓祝辞・表彰状などの贈呈があり、生徒代表の決意表明や築館校とのエール交換などがあり十一時すぎ終了した。

最後に全員起立して、プラスチックで校歌を歌ったときは、おもわず胸がつかえた。

続いて、記念講演が行われた。講演者は、古中四十七回卒のいま世界的に活躍されている長崎大学名誉教授 松本慶蔵氏・氏の話は誠に人生の生き方を問う示唆に富む内容の話であった。そして、最後に新約聖書 マタイ傳の一節を引用し次のように結んだ。

“生徒諸君！ 古高のよき伝統を守り、世のため 人のために役立つ人間として成長し、地の塩となれ”

氏の母校と後輩を思う情熱あふれるひとことひとことが会場一杯に伝わっていた。

一時半より、会場を芙蓉閣に移して祝賀の宴が行われた。野村同窓会長の挨拶ののち、乾杯に入り、途中ですばらしいアトラクションなどもあり、会場のあちこちで歓談の渦がまいていた。そして予定どおり三時過ぎ万歳三唱のうちに散会となった。私は、翌日の会議があるため、終了間もなく退席した。芙蓉閣から駅まで歩いていった。紅葉の時期は過ぎてもう晩秋。一日は早く過ぎてゆく。今日一日の興奮とアルコールでほてった顔を、足ばやにやってくる冷たい風が心地よくすり抜けていた。

四時十分、東京と人となるべく新幹線で帰途についた。

古高百周年記念式典、この文字のひびきが厳粛にしてロマンを秘めたものであると、是非出席しよう、大いなる期待をもって個人的に参加した。

率直な感想を述べさせていただければ、大方の叱正を受けるだろうが現実には期待を裏切るような式典だった。この種の式典の演出は困難なものだらうと準備委員会の皆さんの苦勞が理解出来る結果となった。例えば会場の八



割位を占める、茶髪・腰パンの在校生の面々。この連中が百周年を引き継ぐ後輩諸君かと、考えさせられた。服装が全てでない、自身の問題だと抗議はあるかと思うが、昨今いろいろ議論されている文武両道の古高の地盤沈下もむべなるかなとこれまでに至った原因等を思考させられた次第である。

手前味噌になるが、同級生の松本慶蔵君の格調高い記念講演が百周年をしめくくるにふさわしいものとなった。

さて舞台は変つて、地元有志の肝入りで久しぶりに中山平で開催された古中四十六・四十七回卒業の同級会は約四十人の面々が出席して五十年前の古中生時代にタイムスリップし盛大で楽しいものに盛り上った。ほとんどがウィークデイのため式典には参加せず同級会のみ参加となった。式典の曜日の組み方も問題があるのかと考えさせられた。

前在京古高同窓会長として約十年程組織の拡充に努力したが、ままならず今日に至っているが、同級会の運営充実が即同窓会の充実につながることも今回は痛感した。

次の節目である二百年式典が本来の文武両道に優れた古川高校に生まれ変わり舉行されるであらうと期待し筆を擱く。



百周年式典に出席して

百周年記念式典に出席して
 昭和37年卒 中鉢 泰平

十一月五日、故郷の澄みきつた秋晴れの空の下、エスオーエス子供村理事長、佐々木武磨先輩の車で、百周年記念式典の前夜祭を祝うべく、鳴子温泉に向かった。会場は鳴子ビューホテルで佐藤廣事務局長、小川春男ご夫妻と合流、少ない人数ながら心温まる祝いの一時を持ち、人の出会いの不思議さ・素晴らしさを感じた。

翌六日、いよいよ母校古高の記念式典の当日の朝、胸の高まりを覚えつつ宿を出発、途中車窓の外を走る故郷の美しい田園風景、今を盛りの紅葉を堪能し、吉野作造先生の記念館を経由して、十時少し前古高に到着した。既に控室には高橋淳夫、渡辺三男、春田紘輔の諸先輩の馴染みある面々が待機されていた。

高校の建物は鉄筋のモダンな姿で、小生の在学当時の木造二階建てとはうって変わった。相撲部だった佐々木先輩は「土俵はどこだったかなあ」と校庭をあっちこちと駆け回って、遂に見つけ出し、「移したんだなあ」と感慨深げな様子だった。野球部だった小生は、教室よりむしろボールを追い回した時間の方が長かったような感じがする位野球に情熱を燃やしていたので、グラウンドには思い入れが強い。これ迄ずっと記

憶の中のグラウンドは、高校生自分にはもてあます程の広いイメージだったが、目前にあるグラウンドは思っていた程大きくなく縮小した感じだ。まるで大きく強かった親の姿の様に。そうこうしているうちに、記念行事の取材にきていた同窓会

広報委員会の千坂孝夫氏に再会、同期の出席者が二人だけだったので、顔を見た時嬉しく感じた。十時に式典が始まり、同窓会の席には、佐藤公哉先輩、関西雪雲会会長、中鉢清氏の姿があった。

式典に参加した学生たちを見ていると、誇りある古高の伝統とは何だったのだろうか、一抹の寂しさと割り切れなさを感じたのは、小生だけではないと思う。例えば服装だが、私服になったのはいいとしても、自分たちの式典に対する心構えをどう表すか、全校で考え合ってしまった結論だったのだろうか。先輩として苦言を一言申し述べたが、百周年に一度の記念式典に参加でき、多くの先輩後輩と交流できたことは生涯の思い出である。諸氏に感謝申し上げたい。

兄貴 目を醒ませ」の声
 昭和35年卒 佐々木 武磨

十一月六日(木)晴、三十七年振りに母校の門をくぐる。新幹線・東北道の開通で都市化の波が押し寄せ、周辺の景色は大幅に変化し、古川の人材才能が流出していることを実感する。

正門左右の木々は大樹となり重厚な歴史を刻み、右手には昔懐かしき三四郎池と図書館はなく、左手には新築の第二体育館が完成、正面には卒業時完成した新校舎が近代学舎の顔として厳然と聳む。校庭側に廻りこむと、第一体育館、校舎・雪雲会館、クラブハウス・プール等の設備が完備し、四十年前に着手した校舎整備が全て完成した感がある。先輩後輩諸氏の流した汗がしみこんだ土、生徒の進路を見渡していた樹には百周年式典を静かに迎える感無量の極に達しているように見える。

記念式典は関係者多数が出席し一世に渡った本校の活躍を祝し盛大に挙行された。在京同窓会からも三副会長はじめ多数の会員が出席し、歴史的なこの式典に立会い喜びを分かち合うことができた。しかしこの式典を盛り上げるべき在校生の姿に少々奇異の念を抱いてしまった。我々の時代は質実剛健・大崎大学生として生徒各自の役割を理解し行動していたように思う。今は自由主義の時代、自己責任のもとで高校生としての態度と表現を求められている。寝起きのままのような自由着、寝ぐせのついた長髪、不潔感の漂った顔々々。主催者として客を迎える在校生の姿ではなく、日常生活の常識を体得していないとは何たることか。

祝辞中の居眠りとは以ての外。モラルを欠いている点が非常に気になった。進学率も後退し大崎大学と呼べなくなっていると聞く。「古高未来ビジョン改革」

を断行、現状を打破し百周年を期に光明を見出し出してほしいと実感した。

最後に坊主頭、学生服で登壇した築館高校生徒会長の応援エールに「兄貴、目を醒ませ」の声と受取ったが在校生諸君はどう感じたかな！先生、在校生、父兄一体となつて、今、大崎大学の復活を。同窓会は応援する。

百周年記念式典に出席して
 昭和26年卒 春田 紘輔

十一月六日 母校創立百周年記念祝賀会が開催され、在京同窓会からも多数の方が出席されましたが、その時の感想を簡単に述べてみたいと思います。

まず、百年の歴史の重さとはいかなるものかという期待感と百年目に丁度居合わせた嬉しさをもつて東京から旅立った。仙台乗継ぎとしたので仙台からは、同期の中島氏等と一緒に喜び合った。あああといふ乍ら喜び合った。母校に着いた九時半頃には、すでに大勢の方々が受付に並んで記帳中であつた。何十年ぶりに顔を合わせてお互いを確かめ合ったり、近況を話し合ったりで、母校の歴史に喜びと誇りを感じつつ、定刻の十時には、会場となる体育館へと案内に従つて着席した。

式は、県知事を始め、各界の名士が一杯に来賓として参列されており厳粛ななかが始まった。久保田校長の開会の挨拶に始まり、次々と祝辞が述べられ、百年の歴史に対する讃辞と古高の今後の発

展に対する期待が述べられた。ここまでは、普通に進行し、会場も特に乱れることなくすべて予定通りであつたと思う。しかし、スタートの硬さがほぐれ、若干の余裕が出たあたりで、次第におかしいということに気がつき出した。

まず、生徒の服装・態度である。全員が中央席に着席しその周囲をぐるりととりかこむ形で、同窓会・来賓が座つたため、真中の生徒の振る舞いがいやでも目に入ってしまう。騒音こそしなかったが、服装の乱れには驚いた。正装がなく自由ということであるが、ズック靴の踵を踏みつぶし、柄シャツの裾を外にたらしだした生徒ばかりが目につく。話しを聞いている様子には見えず、これが百年目にして在学する後輩かという感じで一杯であつた。

次に進行のまずさである。来賓挨拶の度毎に生徒を起立させるためと思うが、知事をはじめ、全来賓の挨拶に対して終始無言で礼としての拍手ができなかったことである。異常な感じを通り過ぎてその都度悲しく、たまらない気持ちであつた。

途中で苦情を並べてしまつて、大変申し訳ありませんが、最近の母校の一般的評価もほぼ同様と聞いており、先輩として残念に思います。

同窓会として、何か役に立てる道を探つて、少しでも上向きな母校にしたいと思う次第であります。



平成9年度総会報告

新体制、新会場からスタート 平成9年度総会は神楽坂で開催

在京古高同窓会の平成9年度総会は、七月二十六日(土)の午後二時から「神楽坂エミール」に九十人を集め開催された。

新体制になってから初めての総会ということで、会場もこれまでの高田馬場「千代田平安閣」から気分を一新して「神楽坂エミール」に移しての開催となった。

初めての会場と台風接近による雨で人手が心配されたが思ったほどの影響なく定時に開始された。総会の議事進行は、決算報告や予算案等通常議案が次々と承認され、最後に今年度百周年記念事業に百万円拠金の件と「生徒会功労賞制定発足の件」が満場一致で承認され滞りなく終了した。

総会終了後は直ちに三十八年卒の大場和男さんの「ペルーと日本(教育者の立場から)」という講演に入った。ペルー日本人学校の校長だった大場さんの話は、世界を震撼させ連日報道された「ペルー」日本大使公邸人質事件が解決したばかりの時期で、日本にはあまり馴染みの無いペルーの話に興味をひかれた。講演終了後は、記念写真撮ってから会場を移して懇親会へ入った。伊藤会長、野村同窓会長、



久保田新学校長の挨拶に続き、九年卒伊藤守治さんによる乾杯の音頭で歓談に入った。途中宮沢出身の円山京子さんによる歌謡ショーと皆さんから提供された豪華景品が当たるくじ引きで盛りあがった。

新体制の事務局がようやく総会で承認され、新しい会場の評判も上々で、特に料理が好評であった。種類も多く味も皆さんを十分に満足させたようだ。例年と同額の会費で記念写真も出来た。初めにしては上出来と思いたい。

(昭和45年卒 畠山英洋)

平成9年度定時総会・講演会ならびに懇親会次第

- 【総会の部】
 - 1. 開会宣言 司会 佐々木 武 郎 S35年
 - 2. 校歌斉唱 司会
 - 3. 会長挨拶 指揮 佐藤 啓 三 S40年
 - 4. 議案審議 会長 伊藤 宗一郎 S16年
議長 佐藤 廣 S29年
 - 第1号議案 平成8年度活動報告承認の件
 - 第2号議案 平成8年度決算報告承認の件
 - 第3号議案 平成9年度活動計画承認の件
 - 第4号議案 平成9年度予算案承認の件
 - 第5号議案 役員改選案承認の件
 - 第6号議案 母校百周年記念事業拠金の件
 - 第7号議案 「生徒会功労賞」の制定発足の件
 - 5. 閉会宣言 司会
- 【講演の部】 司会 佐藤 公 哉 S32年
 - 1. 講演開会宣言・講演者紹介 司会
 - 2. 演 題 「ペルーと日本」(教育者の立場から)
 - 3. 講 師 大場 和 男氏(古高S38年)
 - 4. 講演閉会宣言 司会
- 【記念写真撮影】
- 【懇親会の部】 司会 高橋 修 一 S44年
 - 1. 懇親会開会宣言 司会
 - 2. 挨拶 会長 伊藤 宗一郎 S16年
 - 3. 来賓紹介 司会
 - 4. 来賓挨拶 高橋 修 一 氏
野村 喜太郎 氏
校長 久保田 齊 氏
副校長 早坂 啓 氏
元校長 高橋 健 三 氏
伊藤 守治 S9年
 - 5. 乾 杯
 - 6. 懇 談
 - 7. アトラクション 司会 円山京子さん
(古川市宮沢出身)
 - 8. 校歌・応援歌
 - 9. 閉会の挨拶 副会長 春田 純 輔 S27年
 - 10. 閉会宣言 司会

「生徒会功労賞」について

趣 旨：① 生徒会活動等学校を含む生活全般で、功労のあった生徒を卒業にあたり表彰し、その功績を讃え、と共に後輩の道しるべとする。

② 生徒の日頃の活動に、全国津々浦々からエールを送っている同窓先輩の存在を確認し、自覚と士気高揚をうながす。

選考基準：① 運動部、文化部活動の業績
② 生徒会執行部等でのリーダーシップ
③ その他顕著な功績を残した者

表彰時期：卒業時(高校3年間を対象)

<第2号議案> 平成8年度 決算報告

科目	決 算 額 (円)	予 算 額 (円)	増 減 △	備 考
年 会 費	1,067,152	1,200,000	△ 132,848	
特 別 会 費	2,442,000	2,960,000	△ 518,000	
広 告 料	140,000	460,000	△ 320,000	
寄付・祝儀金	119,000	400,000	△ 281,000	
雑収入・利息etc	9,401	50,000	△ 40,599	
収 入 計	3,777,553	5,070,000	△ 1,292,447	
前期繰越金	4,605,110	4,605,110	0	
合 計	8,382,663	9,675,110	△ 1,292,447	

<第4号議案> 平成9年度 収支予算(案)

科目	予 算 額 (円)	前年実績額 (円)	増 減 △	備 考
年 会 費	1,200,000	1,067,152	132,848	2,000円×600名
特 別 会 費	1,920,000	2,442,000	△ 522,000	総会・新年会費 8,000円×120名×2回 個人広告 2,000円×50名 企業広告 400,000円
広 告 料	500,000	140,000	360,000	
寄付・祝儀金	300,000	119,000	181,000	
雑 収 入	7,000	9,401	△ 2,401	両金料子
収 入 計	3,927,000	3,777,553	149,447	
前期繰越金	4,245,390	4,605,110	△ 359,720	
合 計	8,172,390	8,382,663	△ 210,273	

<支出の部>

科目	決 算 額 (円)	予 算 額 (円)	増 減 △	備 考
会 議 費	2,329,732	3,600,000	△ 1,270,268	
印 刷 費	525,105	600,000	△ 74,895	
事務用品費	60,941	50,000	10,941	
通信費	639,087	1,200,000	△ 560,913	
広告宣伝費	0	50,000	△ 50,000	
広報費	259,272	300,000	△ 40,728	
組織強化費	140,283	400,000	△ 259,717	
雑 費	182,853	200,000	△ 17,147	
支 出 計	4,137,273	6,400,000	△ 2,262,727	
次期繰越金	4,245,390	3,275,110	970,280	
合 計	8,382,663	9,675,110	△ 1,292,447	

<支出の部>

科目	予 算 額 (円)	前年実績額 (円)	増 減 △	備 考
会 議 費	1,830,000	2,329,732	△ 499,732	7,000円×120名×X 2回+役員会15万 会費年2回等
印刷費	700,000	525,105	174,895	
事務用品費	200,000	60,941	139,059	
事務経費	50,000	0	50,000	
通信費	700,000	639,087	60,913	切手等(企業)
広告宣伝費	30,000	0	30,000	
広報費	250,000	259,272	9,272	会費の増市
組織強化費	300,000	140,283	159,717	
本会特別支出	1,050,000	0	1,050,000	100周年・功労賞
雑 費	100,000	182,853	△ 82,853	
支 出 計	5,210,000	4,137,273	1,072,727	
次期繰越金	2,962,390	4,245,390	△ 1,283,000	
合 計	8,172,390	8,382,663	△ 210,273	

会長を中心に参加者全員のスナップです



在京古高同窓会 創立100周年記念総会 H9.7.26 於 神楽坂エミール



在京古高同窓会 創立100周年記念総会 H9.7.26 於 神楽坂エミール

謹んで新年のお慶びを申し上げます

今年も元気で頑張りましょう。
健脚は健康の基、良い仲間の話合
は進歩の基、民族の仲よしは世界
平和の基。

昭和9年卒 伊藤守治

古高創立百周年記念式典に参
加。五十四年ぶりに母校の門をく
ぐった。感動ひとしお・質実剛
健の血がさわいだ。

昭和18年卒 渡辺三男

健康で明るく、楽しく生きよう
をモットーに、今年もよろしくご
支援下さい。

昭和29年卒 佐藤 廣

本年も三合を生活信条とし、大
切に生きてまいります。同窓生の皆
様よろしく。

「出合い」「触れ合い」「付き合い」

昭和30年卒 渡辺吉郎

あけましておめでとー 同期
の諸君！元気で還暦を迎えられ
ることかさねておめでとー、益々
お元気で。

昭和32年卒 佐藤公哉

本年こそ野球部OB会を発足
したいと思っております。心あたりの
方ご連絡下さい。

〇三―三三四五一六〇三三五

昭和37年卒 中鉢泰平



新役員

会長

副会長

事務局長

監事

顧問

組織委員長

事業

広報

財務

幹事

伊藤宗一郎	多藤省徳	高橋淳一	遠山仁夫	春田紘輔	佐藤廣	青沼康七	永沼幸七	佐々木	今野栄	半田喜	渡辺実	佐藤吉	萩公哉	穴澤雄	伊藤志	小藤守	渡辺三	横山治	菅中潤	門脇昇	遠藤健	佐藤夫	太田徹	金田康	小野賢	早坂清	門脇敏	佐々木	佐々木	佐藤光	佐藤文	佐藤孝	中鉢泰	浅野将	佐藤啓
-------	------	------	------	------	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

在京古高二九会 有志

伊藤竜三(小牛田)	高橋清亮(富永)
岩淵瑞穂(三本木)	千葉善隆(岩出山)
大沼悟(池月)	豊田哲夫(中新田)
尾梶健寿(鹿島台)	中島五郎(中新田)
小川春男(南郷)	長浦稠(古川)
小野賢次(田尻)	野田劭(東大崎)
金村繁(中新田)	早坂清吉(三本木)
今野和義(小牛田)	早坂高明(大衡)
斉藤満夫(敷玉)	福富啓祐(古川)
佐藤興市(松山)	古内良彦(志田)
佐藤永寿(鳴子)	三浦憲一(小牛田)
佐藤廣(岩出山)	峯村芳彦(小野田)
瀬戸光(三本木)	八尋恭平(宮崎)

(お知らせ) 在京古高二九会(同期会)を平成10年1月25日(土)に古川市内高校関東同窓会新年の集い終了後、6時から魚民(うおたみ)日暮里東口駅前店(TEL03-3802-8988)にて行います。

ご参加を乞う。(別便にてご案内)

幹事

浅野修次	佐々木達也	尾形俊幸	大亀充	亀井明	平川幸	高橋弘	浅野誠	菅原勝	早坂博	岡崎裕	木村三喜	小嶋英	高橋洋	伊澤一	高澤雄	菊地誠	小杉輝
------	-------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

在京「三一会」有志

浅野平男(色麻)	熊谷正俊(古川)
生亀功(池月)	佐々木寛(中新田)
石川勝夫(鳴子)	菅原陸郎(古川)
石堂十六男(長岡)	鈴木和夫(古川)
大内一正(中新田)	萩沢法雄(清滝)
大石隆一(田尻)	益子剛(色麻)
奥村信良(敷玉)	松谷嘉男(古川)

三一会の同期会を例年通り平成10年2月14日(土)午後1時よりホテルニュー神田にて行います。多数の参加をお待ちしております。

株式会社 エコー

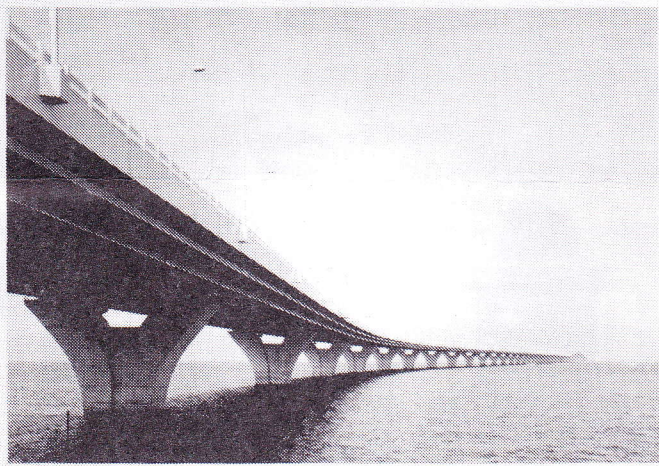
代表取締役 鈴木 節 夫
昭和33年卒(高10回生)

東京都大田区上池台3-5-7
TEL03-3720-0313

子供は未来の宝、大きく育てよう
福祉・子育て相談(秘密厳守)
いつでもどうぞ!!

社会福祉法人 エスオーエスこどもの村
理事長 佐々木武麿 (昭和35年卒)

〒193-0841 東京都八王子市裏高尾町991
TEL 0426-61-8433 FAX 0426-69-5032



東京湾アクアライン橋梁部

技術と品質で21世紀に飛翔する

 株式会社 宮地鐵工所

代表取締役会長 遠山 仁一 (S.25卒)
東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

ひらけサーバン



キーレス時代が
やって来る

車のキー綴じ込み
紛失に威力を発揮

あなたの指一本で開錠
工具も道具も必要なし

コンピューターと
インテリジェント機能材料
応用製品

栄鴻技研株式会社

代表取締役 青羽 勝利
(昭和32年卒 中新田)

〒259-1117 神奈川県伊勢原市東成瀬12-3
Phone 0463-94-8354 FAX 0463-96-0318

情報技術で世界を結ぶ



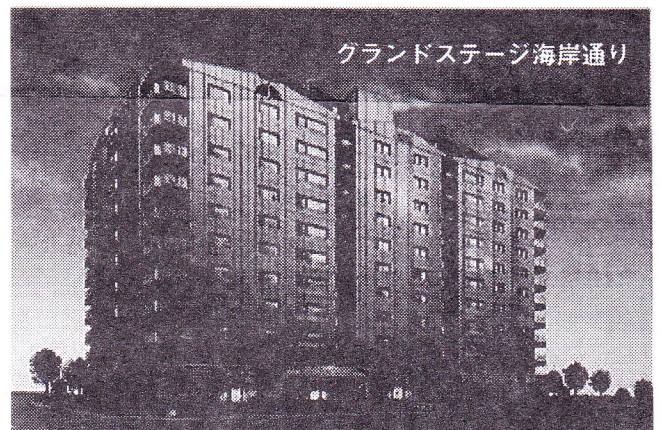
Anritsu

アンリツ株式会社

取締役社長 中川 裕 雄
(昭和28年卒)

本 社: 東京都港区南麻布5-10-27 〒106
厚木事業所: 神奈川県厚木市恩名1800 〒243

グランドステージ海岸通り



高層域に悠然と佇む総合芸術空間。

Century 21

〈事業主〉
AMENITY STAGE CREATIVE
ハウジングセンター

〒154 東京都世田谷区三宿1-13-4
センチュリー21の加盟店はすべて独立・自営です。

1995年度日本総合第1位
世界13ヶ国6000店中世界第2位

古高47年卒 代表取締役 小 嶋 進 ☎03(5430)0021

皆様のお力をお貸しください!

●企業誘致 ●地場産品販路拡大 ●ネットワーク強化 ●情報受発信

古川市東京事務所

所長 佐藤 吉 昭 (S40卒)
副所長 佐々木 強 悦 (S51卒)
主事 紺野 和 俊 (S63卒)

台東区上野1-18-11 西楽堂ビル4F (上野松坂屋南館向き)
TEL. 5818-6432 FAX 5818-6431

住友海上ゆうゆう生命保険(株)

取締役社長 佐々木 惇
昭和26年卒(高3回生)

東京都中央区新川2-27-1
TEL03-5541-3111

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

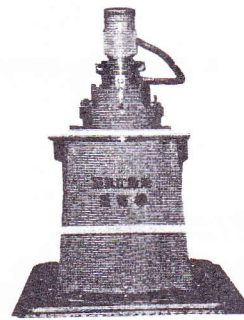
株式会社 佐々木商事

代表取締役 佐々木 光一路

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
卸売部 電話 (3739) 2468
FAX (3739) 7234
不動産部 貸ビル・貸マンション
HOT Line 030 2026393

大富の減速機

シリーズI



- ◎生活排水処理設備
 - ◎工場排水処理設備
 - ◎し尿処理設備
- 円形沈澱槽汚泥掻寄機用
安全装置付堅型減速機
- | | |
|-------|-----------------|
| 容量 | 0.1kW~3.7kW |
| 出力トルク | 30kgm~5,000kgm |
| 減速比 | 1/125~1/100,000 |

創業46年の専門メーカー

株式会社 大富製作所

代表取締役 古内 良彦
昭和29年卒(高6回生)

本社工場 〒146 東京都大田区仲池上2-15-7
TEL03-3753-7211(代) FAX03-3753-7456

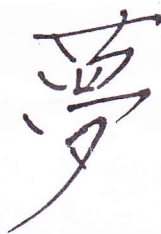
佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・エネルギー管理士

KGK ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構

〒221 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノウェブ 100-11階
TEL 045-451-2561 FAX 045-451-2490
自宅 〒221 横浜市旭区中白根2-22-19
TEL/FAX 045-953-3894



昨年度は、長年継続して参りました日本・諸外国の旅、福祉や教育及び産業視察等専門研修を手がけさせていただき、誠に有り難うございました。

旅は、その度毎に新しい出会い・発見・学びがある未知数の玉手箱です。本年度もそんな旅学を夢とし、ヒューマンな旅づくりを目指したいと思います。

何卒ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



〈お問い合わせ先〉

(株) インターナショナル ヒューマン トラベル

代表取締役社長 中鉢 泰平 (鴨子出身・昭和37年卒)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-5-12-115
TEL & FAX 03-3345-6035

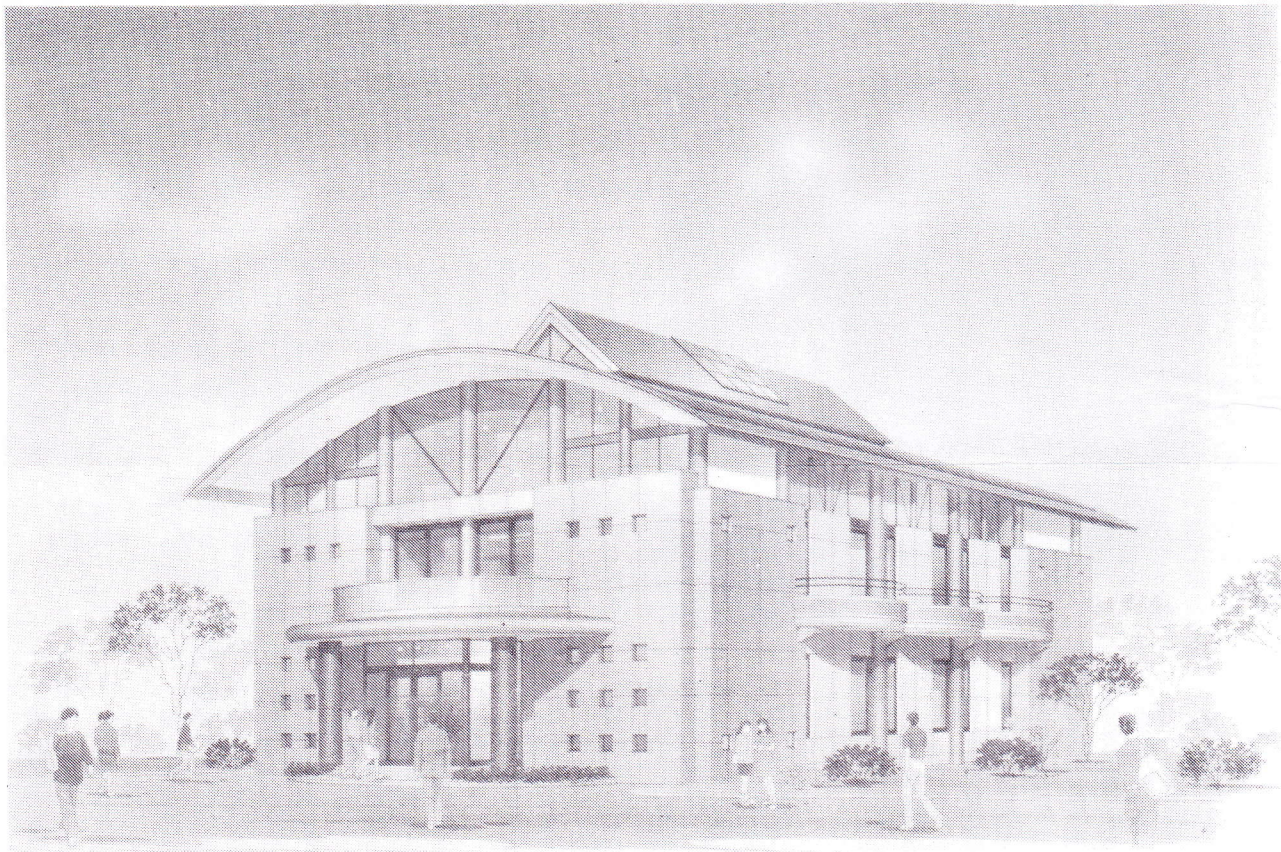
美しい時代へ——東急グループ

株式会社 東急レクリエーション

取締役社長 佐藤 進
(昭和26年卒業)

東京都渋谷区桜丘町2番9号
☎03(3462)8855

百周年記念事業の一環です



ちよつとお知らせ
新内伸三郎の会、十一月二十九日、日本橋三越劇場にて「心中緒絶の橋」を上演。

”妹背山ふかき道をばたづねずて緒絶の橋に踏み迷ひける”
司会・進行は古川ゆかりの葛西聖司NHKアナ(叔父は古川西館)

葛西米穀店主
昨秋、古川市民会館でも上演。この時は朝丘雪路の振りはなかつたとのこと。



懐かしの我が母校百周年記念式典での1コマ

税 理 士 青 沼 康 男
不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805

TEL 03-3452-2004

FAX 03-5476-8006

“人を生かし企業を活かす!!”

パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡 邊 道 雄

S28年卒 (鹿島台町)

本社 東京都杉並区高円寺北1-4-10

TEL 03-5343-5821

立川営業所 (0425-28-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 郡山営業所 (0249-21-0990)

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。
文書 図面 写真 音声 映像を簡単にC-D-R-OMにします。

- データベースの入出力・活用
- デジタル変換
- コピーサービス
- 総合印刷
- CAD入出力
- 文字情報入出力
- プリペイドカード



データベース作成支援 完成図書・総合複写/印刷

株式会社 ケーヨー

代表取締役社長 早坂 清吉 (昭・29年卒)

本社 〒103 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191
横浜支店・千葉支店・八重洲営業所

悩める事業委員会

いつも役員会で話題になるのが、総会その他諸会合の出席人数です。いかに多くするか、どうしたら参加してもらえるかです。

設定月日がよい、金がかからない、内容が面白い、有意義である等々、そして全員への通信手段であります。在京する同窓生に郵送する場合は、二千百人、会費納入者に限れば六〇〇人、役員だけでも五十八人です。現在、会報・総会・新年会の行事通知は二千百人に出しています。

今年の事業として、同窓生のゴルフ会を開催して欲しいとの要望があり、また年に五〜六回の講演会を開いたらどうかとの意見もあります。何をやるのもよいが、通信手段と、はたして同窓会活動にふさわしいのかどうか、などその判断に苦しんでいる現状であり、ちなみに、役員会は一五〜二〇人、総会でさえ一〇〇〜二〇〇人の出席人数です。よい打開策ご意見があればお聞かせ願います。

(佐藤公哉)

「古中・古高百年史」領布中!

前第19号でお知らせした本史が、百周年式典時に刊行されました。

一冊 四千元(送料込み)

問合わせ・申込み

古川高等学校

創立百周年記念事業協賛会

古川市南町二の三の十七

電話 〇二九一三二一三〇四三

広報委員会

第20号(新年号)の感想はいかがでしょう。

広報委員会へご承知の如く、会報「螢雪」を年二回、一月一日と七月一日に発行しております。これは又、四校合同新年会と同窓会総会案内に合わせたものであります。

今回は母校百周年式典及びその出席感想に特色を持たせました。それぞれの立場年代での深い感想があらわれていると思えます。

広告につきましては、(くどくなりませんが)企業広告大二万円、小一万円を協賛いただいております。自己アピールと会の財政補助のためにご協力いただければ幸いです。

紙面につきましては、自由投稿(思い出、人生、思うこと...)の多いバラエティに富んだ内容にできればと思っております。同期会の報告、部OB会の報告等もお寄せ願います。

同窓会事務局は残念ながら所在のみで、血の通った対応ができませんが、郵送いただければ確実に届けられます。

幸いにして原稿及び広告を依頼した方々には好意のご回答をいただき、片平・尾崎両氏亡き後も順調に発行にこぎつけてはおりますが、役員(幹事)のみではなく、広く同窓の皆様からのご協力があれば尚一層の紙面充実がはかられます。

届いてうれしい”螢雪”
読んでなつかしい”螢雪”

組織委員会

新年明けましておめでとうございませう。

同窓会事務局では会員皆様へ年に二回、会報「螢雪」を送付しております。毎回送付通数の5%が何等かの理由で戻って来ております。誠に勿体ないことです。皆無にすることは無理と思えますが会員皆様の一人一人の心遣いで防止出来ると思えます。住所、電話番号の変更の折は事務局へ連絡下さい。

今回も会員皆様に新年会への参加案内返信用のハガキを同封しておりますが、現在名簿を幹事の皆様と一緒に整備しておりますので、出欠のハガキ記入の上、ぜひ皆様ご投函されるようくれぐれもお願ひ申し上げます。皆様のご健勝を祈念いたします。

(渡辺吉郎)

事務局談話室

(一) 母校百周年記念事業拠金に關し、総会に於いて承認いただきましたので、八月中旬に「宮城県古川高等学校創立百周年記念事業協賛会」宛に百万円振込みました。

(二) 去る十一月六日(木)に、百周年の記念式典が母校体育館で行われ、在京古高同窓会からは十三名が出席しました。出席の方々に感想を書いて頂きましたが、一部補足をしたい。

① 式典は厳粛そのもので、挨拶、表彰と続いた。記念事業の高

額募金者への感謝状ぐらい?はと感じた。祝賀会で野村会長から、募金活動は今後も続けるとの依頼と説明があったので、これからは文化部活動センターの募金活動は続きます。在京同窓会としても、未だご支援をいただけない方々にお願ひをさせていただきたく考えています。

② 松本教授の記念講演は素晴らしい内容でしたが、与えられた時間が少なかつたせいで急ぎ足にならざるを得ず、もつとゆっくり話を聞きたかつたと思えました。幸いにも、機会があればいつでもご講演をお願ひ出来ることのお話を頂戴していただきますので、ご期待を頂きたい。

③ 事業委員会で百周年記念旅行会を企画したが、希望者少なくなりやめとしました。何事も参加することに意義ありと云いますが、拒否反応だけなしに、意見を云うのも参加の一つでありますので、どしどし事務局宛にご意見をお願ひします。

(三) 十一月九日(日)に浅草の東京本願寺で故片平司朗前事務局長の一周忌の法要が営われた。多藤・春田両副会長はじめ有志の方々と共に出席しました。同日十三回忌の奥様と一緒に並んで飾られた二人の遺影が印象的でした。

(四) 十二月七日(日)に在仙古高同窓会の総会・懇親会がパレス宮城野で開催された。在京からは伊藤会長と共に出席しました。総会は早坂会長欠席のため三浦良副会長が代行議長となり、進められました。事務局が新しく次の様

になりましたのでお知らせします。

在仙古高同窓会事務局

仙台市青葉区国分町三二七-一

仙台市企画局内 小堺 邦彦

(仙台市役所古高同窓会事務局内)

電話〇二二二二四一四八

(五) 十二月二十一日(日)に有

楽町の九重で故尾崎章前広報委員長の”偲ぶ会”を友人・有志が集まって行われた。会報十八号を発送した直後に倒れ亡くなったので、広報委員会の方々が、後を引き継ぎ今回の二十号も立派に発刊されることになったと草葉の陰の故人に報告をしたところでもあります。

(佐藤廣)

編集後記

前号では「編集後記」さえ書かせていただければ、多少の苦勞は厭われない、との思いでした。

今回は短い作業期間にもかかわらず、原稿を順調にお寄せいただいた。広告協力を併せて深く感謝したい。事務局長には、広告関係では大きな力になっていただいた。(いよいよ実力発揮!)

ケーヨーの若い飯沼さんと打合せ、字体を読み易い大きさにした。(小生の場合、近眼故不問)

というわけで、今号についての後記は”感謝”(こんなクラシックはあったでしょうか)のみ。中新田の”火伏せの虎舞い”と鳴子の奥の”虎毛山”、九八年望外の願ひ。

(チ)